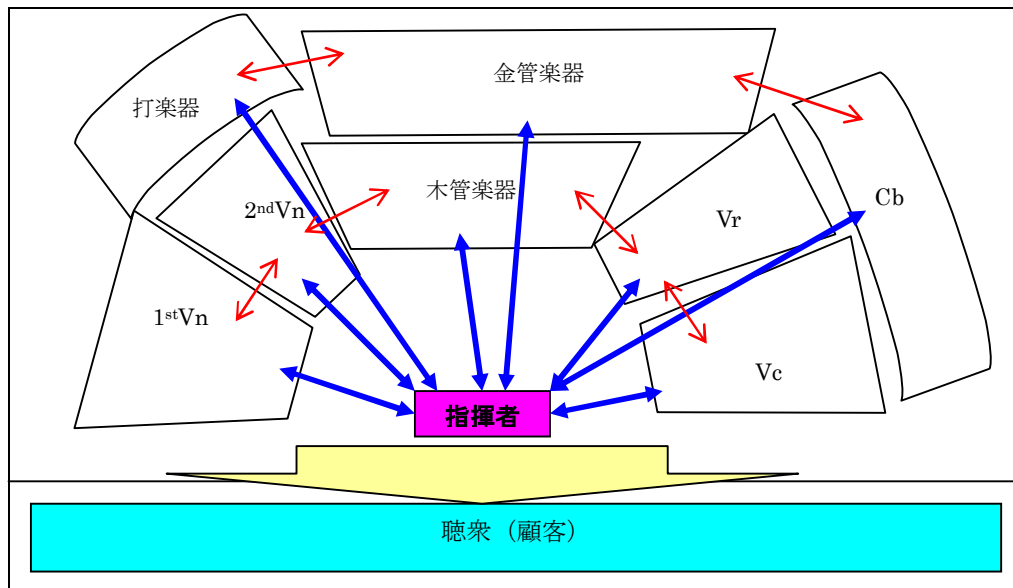


『オーケストレーションに見る「島」の形成とネットワーク』



- ・島の形成:各楽器群(専門職)ごとに島をつくり、各楽器群にはパートリーダ(G L)がいる。
- ・縦の対話：指揮者(リーダ)と各奏者は島とは関係なく 1:n の関係で直接対話している。
 ↑
 ↓
 主に、テンポ・リズム・頭出しのタイミング(D管理)の情報と島間の音量のバランス(スキルバランス)の情報を交換している。
- ・横の連携：各奏者は、楽譜(作業規準書／標準図面)を見ながら指揮者のタクトを視野に入れ、同時に耳で横(島)の状況を相互に伺っている。
 ⇔
 主に音程・旋律の受け渡しの流れの把握(業務フロー)を相互確認している。
- ・コンカレント性：縦と横の情報交換・連携は同時に進行している。後戻りの効かない一回限りの作業であり、一層の同時・同期性が要求される。
- ・CS：成果物に対する顧客の評価は、演奏終了後即座に全員に帰ってくる(“ブラボー”or “ブーイング”)。だからみんななすべきことがわかっている。…日ごろの鍛練である。
- ・パートリーダ(G L)の役目：演奏会当日の役目は何もない。ひたすら日ごろの鍛練を怠らないためのレッスンメニューの計画と弱点(あるいは問題児)の強化・補強策の案画・実施である。そして最も大事なのは、みんなの目指す範となるべく己の技量を一層磨き上げることである。
- ・指揮者に要求される能力：演奏会本番は単なる成果発表の場である。出来栄の善し悪しは、直前に行われるわずかな時間のリハーサルで決まる。ここで、指揮者(リーダ)としての自己主張(コンセプト)とそれに照らした場合の不具合を瞬時に指摘し修正させる。そこで、明確なコンセプトとするどい音感を持ち合わせておくことはもちろんだが、最も必要とされるのは、人を引き付ける“1風度／風格”である。

以上¹

¹ 風度：「あなたのためなら～」といわせる人格のこと。中国の言葉